

教育目標(めざす児童生徒像)

- 1 健康でねばり強い子どもを育てる。
- 2 自分で考え、すすんで実行する子どもを育てる。
- 3 美しいものにあこがれ、だれとでも仲よく助け合う子どもを育てる。

今年度の指導の重点

- 1 心身ともに健やかな子どもを育てる
 - ・きまりを守って安全に生活できる
 - ・最後までやり抜く、ねばり強さを身につける
- 2 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる
 - ・授業改善
 - (聴く・話す・書く・考える 毎時間の目標の明確化)
- 3 自他共に大切に、助け合う子どもを育てる
 - ・自己肯定感、自尊感情を育てる
 - ・一人一人の違いを、認め合うことができる

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

国語、算数とともに県平均より正答率が低く、特に活用力を問うB問題は厳しい。
 国語Aの「読むこと」の領域の正答率は県平均より高い。しかし、国語Bの「読むこと」はかなり低い。
 割合の意味が理解できていない。
 グラフを読み取ることができていない。
 求積の公式は知っているが、使い方が分かっていない。

県

国語の平均正答率は県平均より高い。特に、言語の知識・理解・技能はかなり高い。
 社会は県平均と同程度である。領域では「国土と地域」はかなり高いが、「我が国の産業」ではかなり低い。
 算数は県より平均正答率がかなり低い。領域では、特に「量と測定」が弱い。
 理科は県平均よりかなり低い。観点別で見ると、特に「自然事象についての知識・理解」が弱い。

【学習状況調査の結果】

全国

1日当たりのテレビ等の視聴時間やテレビゲームをする時間(3時間以上)の割合が県平均より高い。
 1日当たりの家庭での学習時間(1時間以上)の割合は県平均と比べてかなり低い。
 ○普段の授業でグループで調べたり話し合う活動の割合が県平均に比べてかなり低い。
 家庭で学校の授業の復習をしている子の割合がかなり低い。
 家族とのかかわりは少ないが、お手伝いは県平均に比べてよくしている割合が高い。
 県平均と比べて読書好きな児童や読書時間の長い児童の割合が低い。読書をしていない児童の割合がかなり高い。
 地域の人も進んで挨拶をして下さるなどで、近所の人への挨拶は県平均と同程度の割合である。
 地域行事に参加したりボランティア活動に参加したりする割合は県平均に比べてかなり高い。

県

テレビの視聴時間は全体的に県平均と同程度である。テレビゲームの時間(1時間以上)は県平均より高い。
 1日当たりの家庭での学習時間(1時間以上)の割合は県平均と比べてかなり高い。
 読書が好きな割合は県平均より高いが、読書をする時間は県平均と比べると低い。
 近所の人へ挨拶をするのは県平均に比べて割合が高い。

成果と課題

国語・算数ともに基礎的な内容が十分には習得できておらず、また、活用型の問題を苦手としている。
 国語Bの結果などから文章を読み取る力が弱く、長い文章を最後まで読み取り理解することが難しい。
 資料を読み取り、わかったことを的確に書けない児童が多い。
 国語・算数など、下学年で学習した内容が定着し理解できていたとは言えない児童が多い。
 記述式の問題が苦手であり、無解答率も高くなる。
 自分の意見を持ちそれを意見交流するなど、コミュニケーション能力や意見が全体に弱い。
 将来の夢や目標を持っている児童が多い。
 テレビやゲームに費やす時間が多く、家庭で勉強や読書をする時間が短い児童が多い。
 地域の行事に参加する児童は多いが、地域や社会に対する関心が低い児童が多い。

課題に対応した改善方法

国語や算数の基礎となる学習を重点的に取り組み、定着させる。(授業、朝学習、家庭学習を通して)
 学習の苦手な児童に対し、放課後補充学習を週1回開き個別に児童の学力向上に寄与していく。
 算数や理科学習を中心に単元学習後も復習プリントなどを実施。学習内容(特に基礎)の確かな定着化を図る。
 読書の機会を増やすとともに、読書の楽しさが感じられるような手立てを工夫する。
 国語だけではなく、全教科の学習で図や表、グラフなどの読み取り学習を進める。児童自身が総合の時間などの調べ学習で資料やグラフ作成の作業機会を多く作る。
 普段の授業で問いに対する答えに理由を付けるようにする。(ノート指導・発表指導などにおいて)
 家庭と連携を取りながら、生活習慣や学習習慣の改善を行う。特に、家庭学習とテレビ・ゲームの時間。
 (12月にアンケート調査で確認)
 全教職員が児童理解を進めながら校内全体が落ち着いて学習できる環境を整える。
 (校内標語「みぞあじ」の確認・徹底。学習規律、規範意識の研修と実践。12月にアンケート調査で確認)

取組の検証方法及び検証時期

児童への校内学習アンケートの実施(学期ごと)
 3年、5年の学力検査の実施(3学期)
 漢字・計算テストの活用による検証(3月)
 児童への学校生活アンケートを実施(12月)
 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

達成目標(数値目標)

「各教科が好き」「授業が分かる」と回答する児童の割合を上げる。
 (1学期アンケート結果 国 = 65%、80% 算 = 59%、65% この数値を上回る)
 3学期学力検査(3・5年)の結果において、国語・算数の平均値を1学期より上回る。
 漢字、計算テストで、個人成績を上げる。学級平均 = 漢字正答率80% 計算正答率90%以上を目指す。
 「学校の勉強が分かる」「家での学習時間」「読書の時間」で、本校事前調査より上回る。
 ○3学期アンケート調査で学習状況調査より家庭学習の平均時間が伸び、テレビ・ゲームの時間が減少する。